

IDEC 株式会社 2024 年 3 月期通期決算 質疑応答要旨
(2024 年 5 月 10 日開催)

Q. 4Q の受注高に関する評価と、今期 1Q 以降の見通しについて。

- A. 米州は流通在庫の消化が進んできており、実需が受注に繋がってきている。
EMEA は、ある程度安定的な受注動向が続いている。
中国は厳しい状況が続いているが、4Q は期末に受注が増える傾向となるため増加している。
日本はユーザー在庫が残っており、回復にはまだ時間がかかる見込み。
1Q 以降米州は改善を見込んでいるが、日本は回復するまで時間がかかると想定している。

Q. 工場の稼働状況について。徐々に稼働が上がって採算性が良くなるのか。

- A. 稼働は 70%程度にすることで在庫調整を行っており、在庫は 2Q をピークに少しずつ減少している。今後エリアによって稼働を見直す工場も出てくると考えられるが、在庫水準は依然として高いため、段階的に調整していく。

Q. 流通在庫、自社在庫正常化の時期は、3 か月前と比べて変化ないか。

- A. エリアごとの見通しは変わっていない。

Q. 販管費率が上がっているが、今後現在の水準が続いていくのか。

- A. 30%を下回る水準にしていくという方針に変更はない。
今期は構造改革を推進していく初年度になるため、投資などにより販管費が増えているが、構造改革後には 30%近くになると考えている。

Q. 今期減益要因となっている要因。

- A. 売上より営業利益を重視しているが、現時点では固定費を変動費化できないものがあるため、利益に影響している。改善に向けて構造改革を行っており、今後 2 桁の営業利益を出していく体制にしていく。今期の水準は、当社として必ず達成したい水準と考えている。

Q. 設備投資 44 億円はどのようなものを想定しているのか。

- A. DX 投資を中心とした、システム刷新費用などが大きい。

Q. 中期経営計画を公表するタイミングはいつ頃になるか。

- A. まだ精査中ではあるが、今期 1Q、もしくは上期決算のタイミングで公表したい。

Q. 今後値下げをするなど、価格の方針に変更はあるか。

- A. 値下げは考えていない。今後も製品の収益性などを踏まえ、機動的に価格の見直しは行っていく。

Q. 厳しい状況ながら配当を据え置いた理由と、社内でどのような議論をしたのか。

A. 今期だけ見ると厳しい状況ではあるが、配当を下げることは考えていない。構造改革の見込みもある程度見えてきており、今後利益率が2桁となる体制にしていけるという考えから維持した。今後利益がもっと出てくれば、目安としている配当性向30-50%くらいになっていく。

Q. 拠点の再編と外部活用について、どのような再編を考えているのか。

A. 生産本部を中心に、国内外での再編を検討している。外部活用については、生産だけでなく、給与関係やITなど管理系での活用も含め、臨機応変に対応していく。

以上